

令和6年度 教育研究発表会 質問回答集

1月8日当日は、本校の教育研究発表会に多くの方々にご参加いただきました。また、当日ご参加いただいた皆様からたくさんのご質問やご意見を頂戴しております。改めて、心より御礼申し上げます。いただいたご質問に対して、研究部から回答いたします。なお、重複する内容のご質問については、一括してお答えしておりますので、予めご了承ください。

○「AARサイクル（展望・行動・省察）」と「自己調整サイクル」「PDCAサイクル」との違いや、寄与する要因について

→今後の行動のために精緻な計画を立て、行動の後に丁寧な評価分析を行うPDCAに対して、AARサイクルは「大まかな見通しを立てたら、まずはやってみる」「やってみた結果を振り返って、すぐに次の行動へつなげる」という要素が強いと考えています。「予見→遂行→省察」と称される自己調整サイクルに近い概念だと考えています（そもそもAARサイクルが、他のサイクルに対する排他的なものではない…というOECDの説明もあるため、校内でも検討中です）。次年度に向けて、本校の考えるAARサイクルとは何かについて、明らかにしていきます。

○これからの授業における教師の役割について

→今回の研究発表会では、生徒が自律的に学びを進めていく姿を多くの教科で公開していますが、その前までの課題設定や学習の文脈づくりが重要だと考えています。また、生徒が自律的な学びを進めていく際にも、つまづいている生徒の支援をしたり、思考を促す問いを投げかけたりするなど、ファシリテーターとしての役割も求められます。また、教師が生徒と共に課題解決をしていくような姿についても模索しています。

○フロンティアタイムのテーマ決定やテーマの絞り方、問いの立て方、発表の仕方について

→現在の2年生には、テーマ決定の際に「探究内容が、将来の自分と繋がっているだろうか？」「将来就きたい職業」と必ずしも同じである必要はない」「探究する内容が社会的、学問的な価値があるだろうか？」「検証や実験をして初めて分かることだろうか？」という三点のチェックリストを使って、テーマの分析を行う場面を設けました。他にも、「自他の幸福につながるか」「持続可能な社会の創造につながるか」なども考える場を設けましたが、一番大切にしたのは「自分の興味」からスタートする、という点です。また、最初に立てたテーマ（問い）が少しずつ変化していく生徒もいるので、テーマ変更は柔軟に対応しています。発表の仕方については、総合的な学習の時間で特別な指導はしておりませんが、各教科等の授業で指導をしています。

○探究活動を進める上で、生徒が各教科の学びの有用性を実感している場面について

→7月に生徒に対して行った調査では、「課題を解決させるための順番は基本的に教科における単元の学習と同じだと思うので、それと同じようにフロンティアも考えてやれば、成功させる事ができると思う。」「数学科の授業で複数のデータから傾向を分析する力を培い、フロンティアのアンケート結果をまとめる際に活かすことができた。」等の回答がありました。今年度のフロンティアタイムが一段落したため、現在改めてアンケート調査を行い、結果の分析を進めております。

○フロンティアタイムの探究にかかる費用について

→生徒が探究のために必要だと考え、自分で購入したものについては関与しておりません。ただし、学校でそろえられるものについては、できる限り支援をしています。

○フロンティアタイムで生徒が外部の方と連絡をとる際の対応について

→基本的には、生徒が外部の方にメールもしくは電話にてアポイントをとっています。ただし、メールの作成の仕方や電話のかけ方については、学校側で事前に指導しています。また、メールの文末に担当の教員の名前と連絡先を記載して、連携して支援しています。探究先として生徒数が多い一部の大学については、事前に担当職員が連絡をして調整をお願いしています。